

個人投資家向け会社説明会

説明者 代表取締役頭取 深井 彰彦

2019年9月5日



《本日のご説明事項》

I. 群馬銀行の概要

1. 群馬銀行の沿革	P.	1
2. 店舗ネットワーク	P.	2
3. 預金等の状況	P.	3
4. 貸出金の状況	P.	4
5. 利益水準の状況	P.	5
6. 利益水準の他行比較	P.	6
7. 顧客向けサービス業務利益の状況	P.	7
8. 不良債権の状況	P.	8
9. 自己資本比率（連結）の状況	P.	9

II. 経営戦略

1. 中期経営計画	P.	10
2. 「3つの改革」	P.	12
3. 「ビジネスモデルの進化」	P.	14

III. 今期業績予想と株主還元等

1. 2020年3月期決算の業績予想	P.	17
2. 株主還元の状況	P.	18
3. 株主優待制度	P.	19
4. 当行の株価と主要指標	P.	20

（補足資料）

1. ESGへの主な取り組み	P.	21
2. 群馬銀行グループ SDGs 宣言	P.	26

I. 群馬銀行の概要



1. 群馬銀行の沿革

～淵源から141年、創業後87年、群馬銀行として64年～

《当行の淵源》

第三十九
国立銀行

1878年設立
(明治11年)



設立当時の本店
(前橋市本町)

統合・再編

1932年9月
県内中小金融機関の大同合併を目的に
《群馬県金融株式会社の設立》
《当行の設立》

群馬
大同銀行

1932年11月(昭和7年)
2行(群馬・上州)を吸収合併し
群馬大同銀行へ社名変更

大正時代
(1915年頃)

群馬県内
普通・貯蓄・商業銀行
《約40行》

昭和元年
(1926年)

《24行》

昭和7年
(1932年)

《7行》

昭和19年
(1944年)

《6行統合》

改称

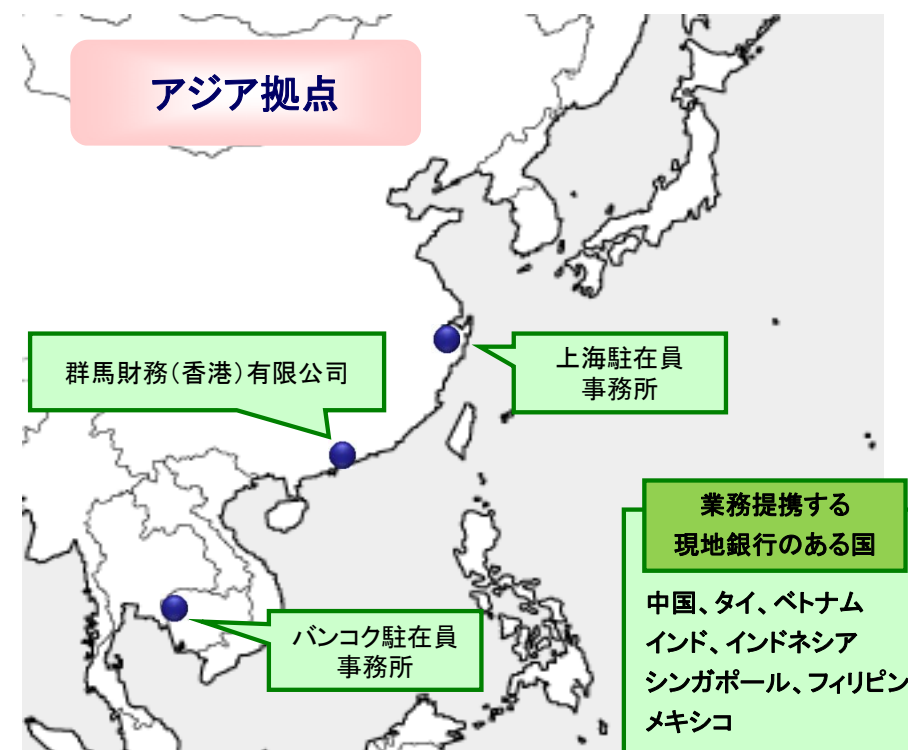
群馬銀行

1955年
(昭和30年)



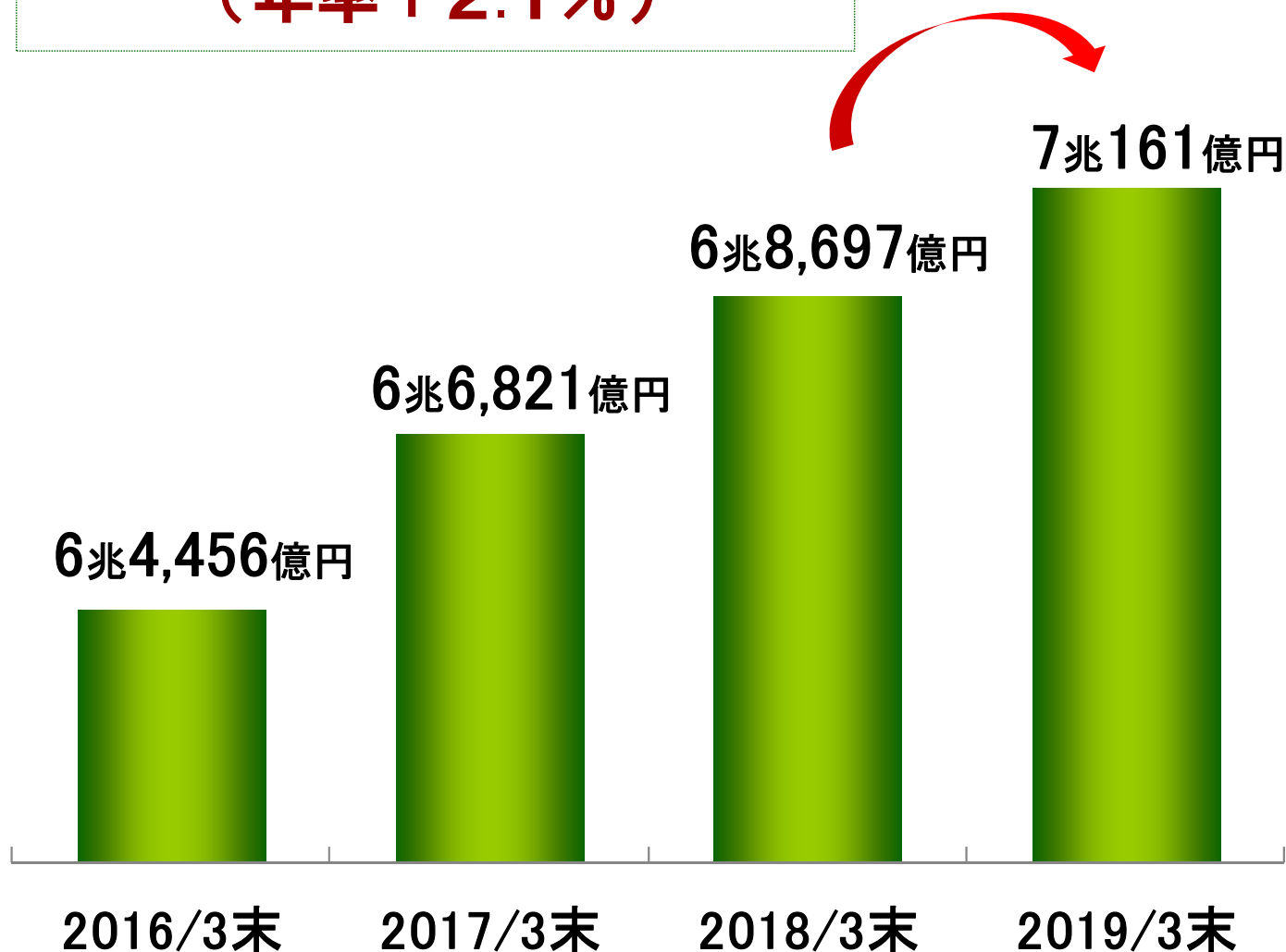
旧本店(前橋市本町)
(現在の「前橋プラザ元気21」)

2. 店舗ネットワーク



3. 預金等の状況[※]

前年同期比 +1,464億円
(年率+2.1%)



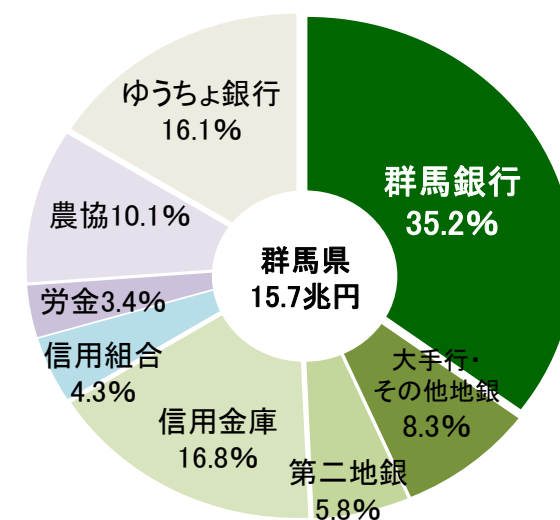
※預金等は「預金と譲渡性預金」を合計した資金量を指しています。

地銀64行の順位第11位

1	横浜
2	千葉
3	福岡
	・
11	群馬
	・

※2019/3末比較

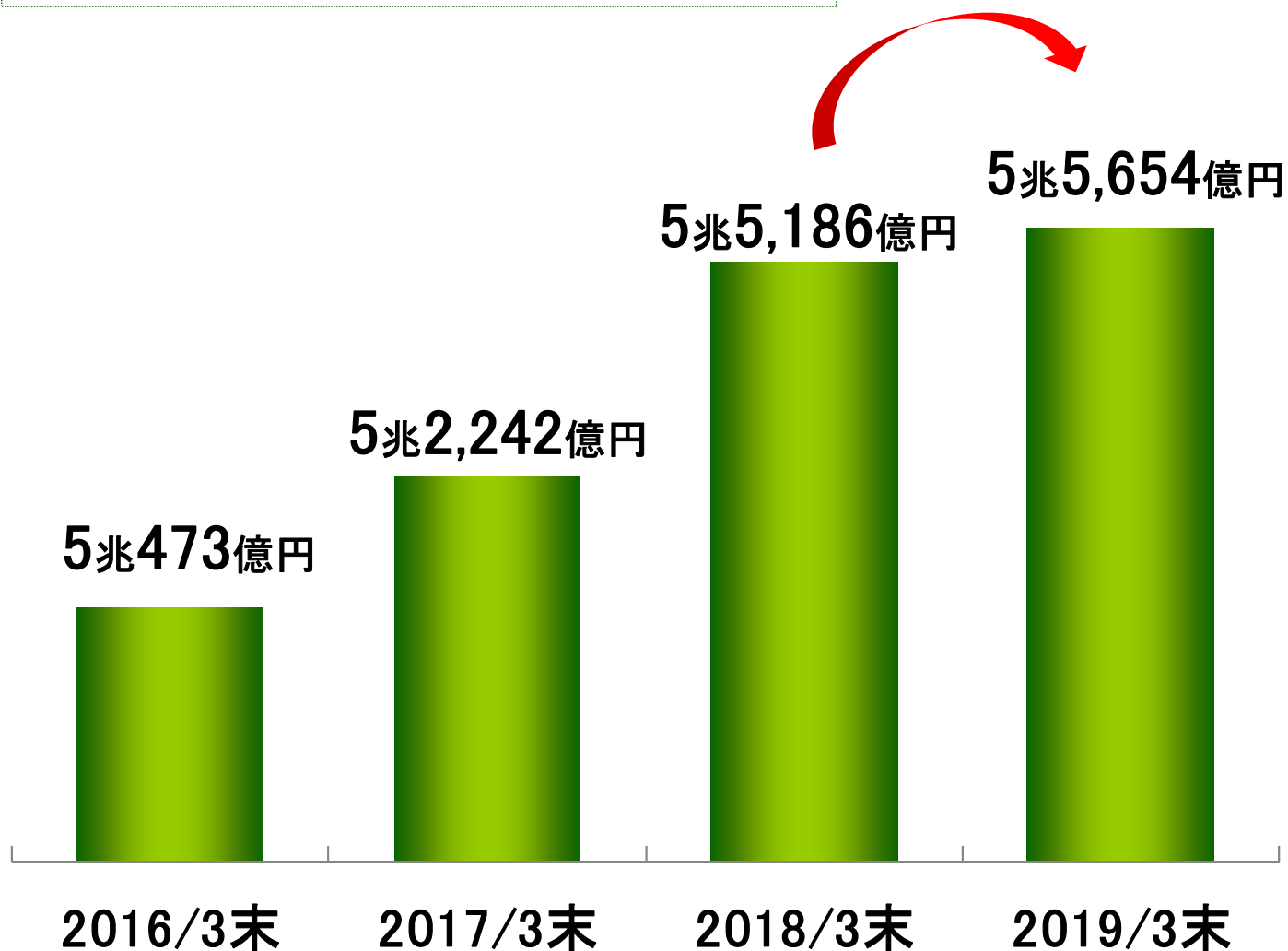
県内シェア



Innovation 新次元

4. 貸出金の状況

前年同期比 +468億円
(年率+0.8%)

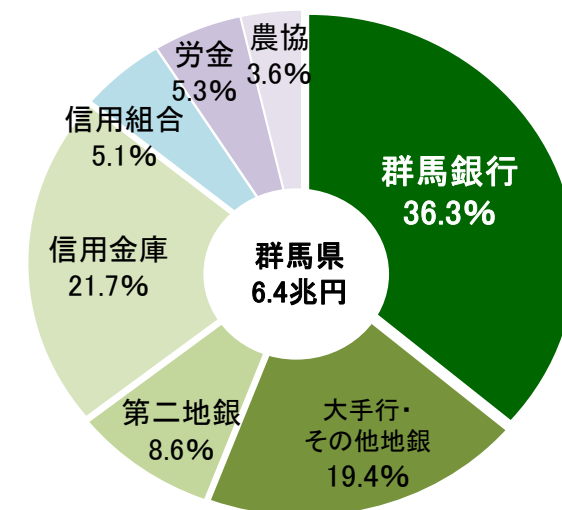


地銀64行の順位第8位

1	横浜
2	千葉
3	福岡
	・
8	群馬
	・

※2019/3末比較

県内シェア



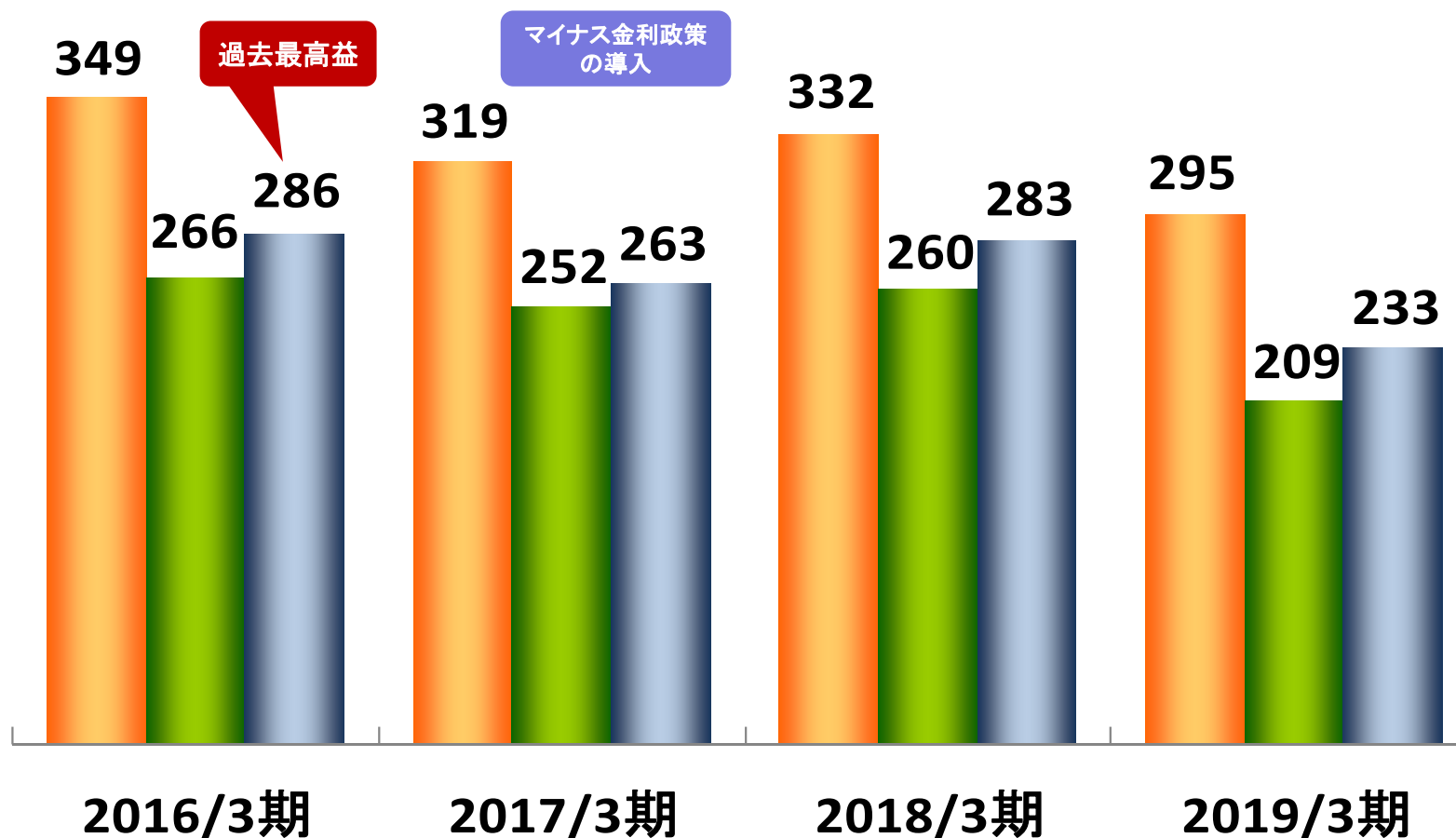
5. 利益水準の状況

当期純利益は高水準域で推移

- コア業務純益
- 当期純利益
- 連結当期純利益

- 「コア業務純益」は、貸出業務など銀行の本来の収益力を表す（事業会社の営業利益に相当する）利益のこと。
- 「連結当期純利益」は、親会社株主に帰属する当期純利益のこと。

（単位：億円）



地銀64行の順位

コア業務純益 第10位
当期純利益 第10位

《コア業務純益》

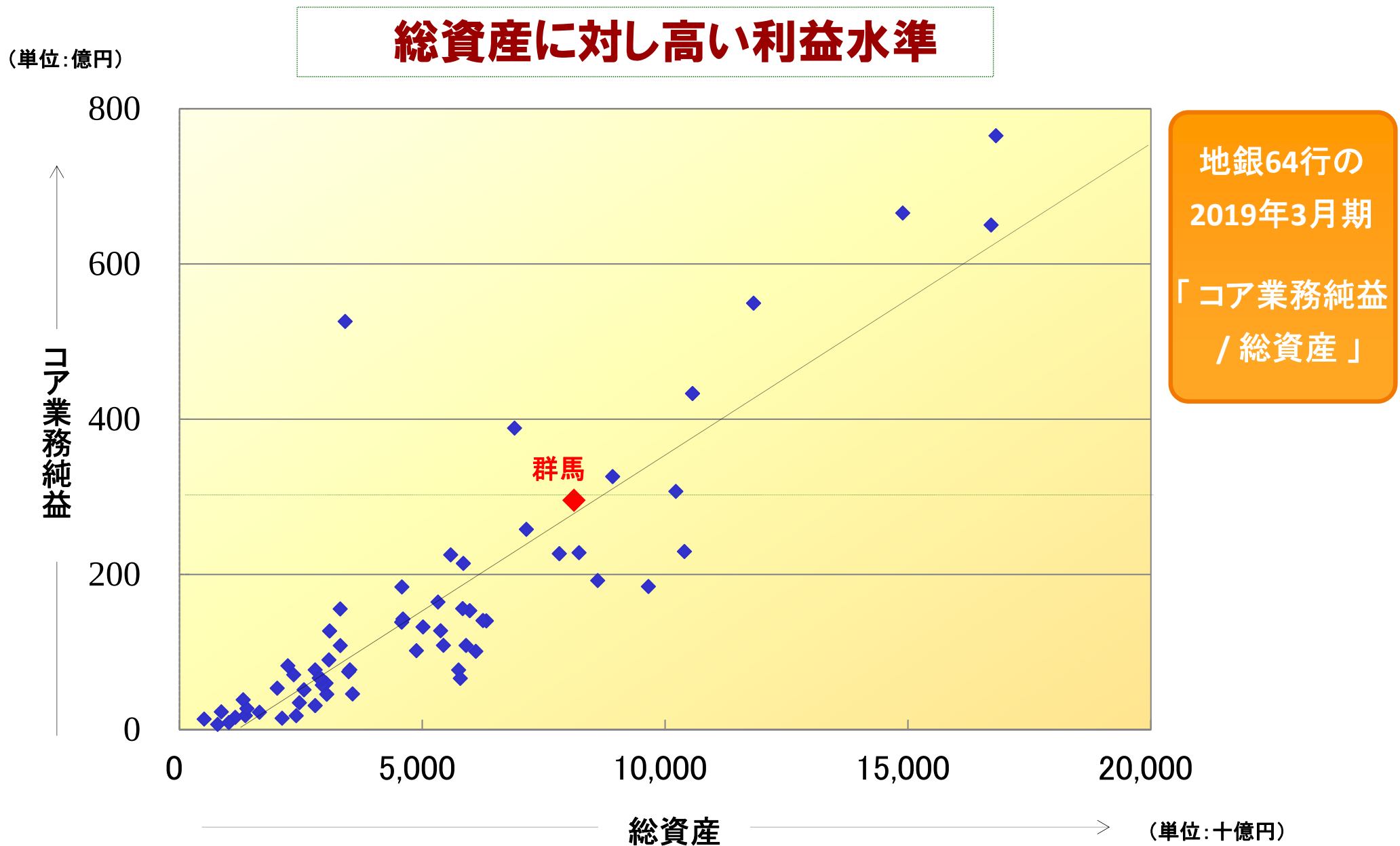
1	横浜
2	千葉
3	福岡
	・
10	群馬
	・

《当期純利益》

1	福岡
2	横浜
3	千葉
	・
10	群馬
	・

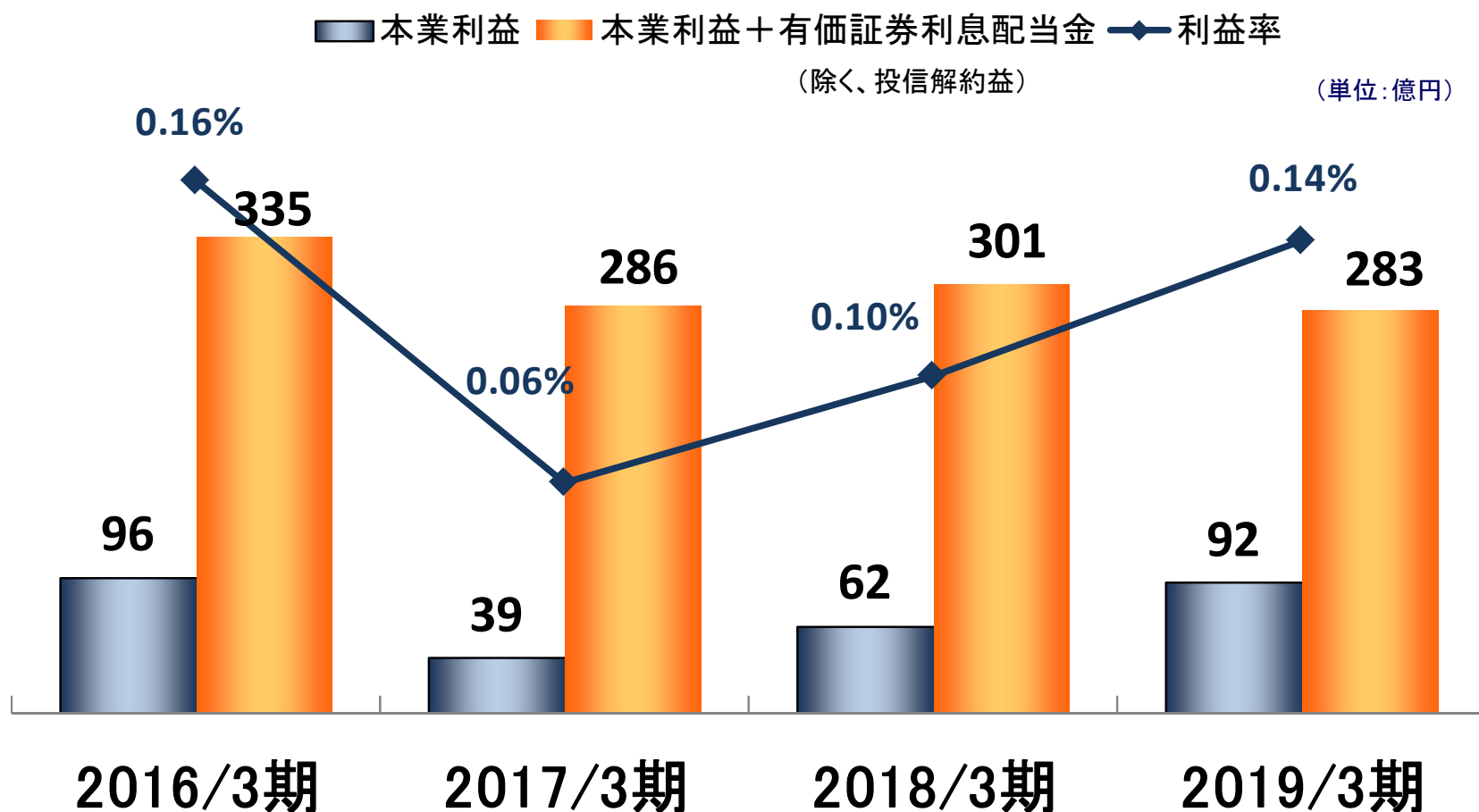
※2019/3月期比較
Innovation 新次元

6. 利益水準の他行比較



7. 顧客向けサービス業務利益の状況

本業利益は一貫して黒字を維持



本業利益は、
地銀64行中11位に位置

1	スルガ
2	福岡
3	千葉
	・
11	群馬
	・

※2019/3月期比較

※算定式

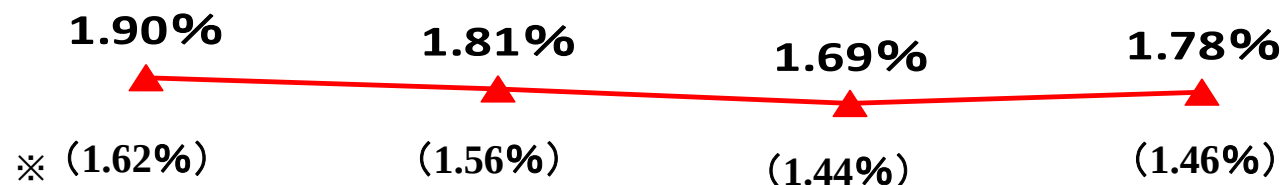
◇顧客向けサービス業務利益(本業利益) = 貸出金利益(貸出平残 × 預貸金利回り差) + 役務取引等利益 - 営業経費

◇同利益率 = 顧客向けサービス業務利益/預金平残

8. 不良債権の状況

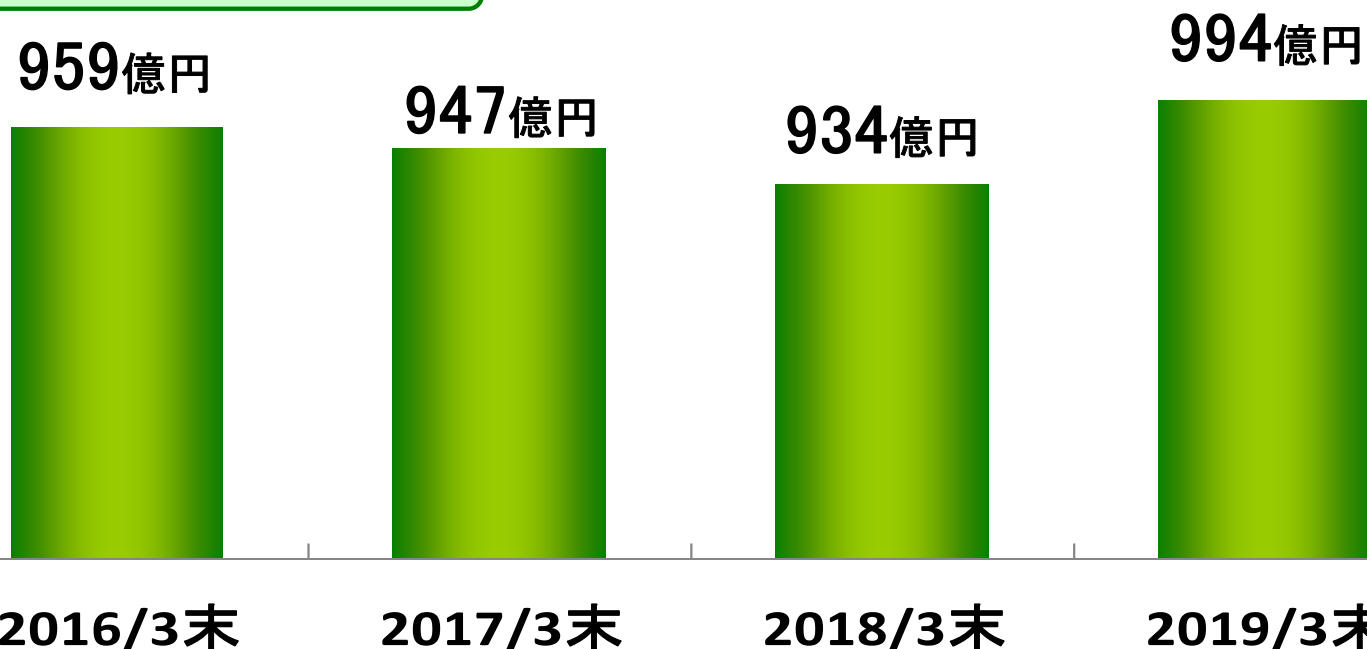
リスク管理債権比率は低位安定

リスク管理債権比率



※ () 内は部分直接償却後の比率

リスク管理債権額



地銀64行資金量
上位15行中第9位

※2019/3末比較(部分直接償却後)

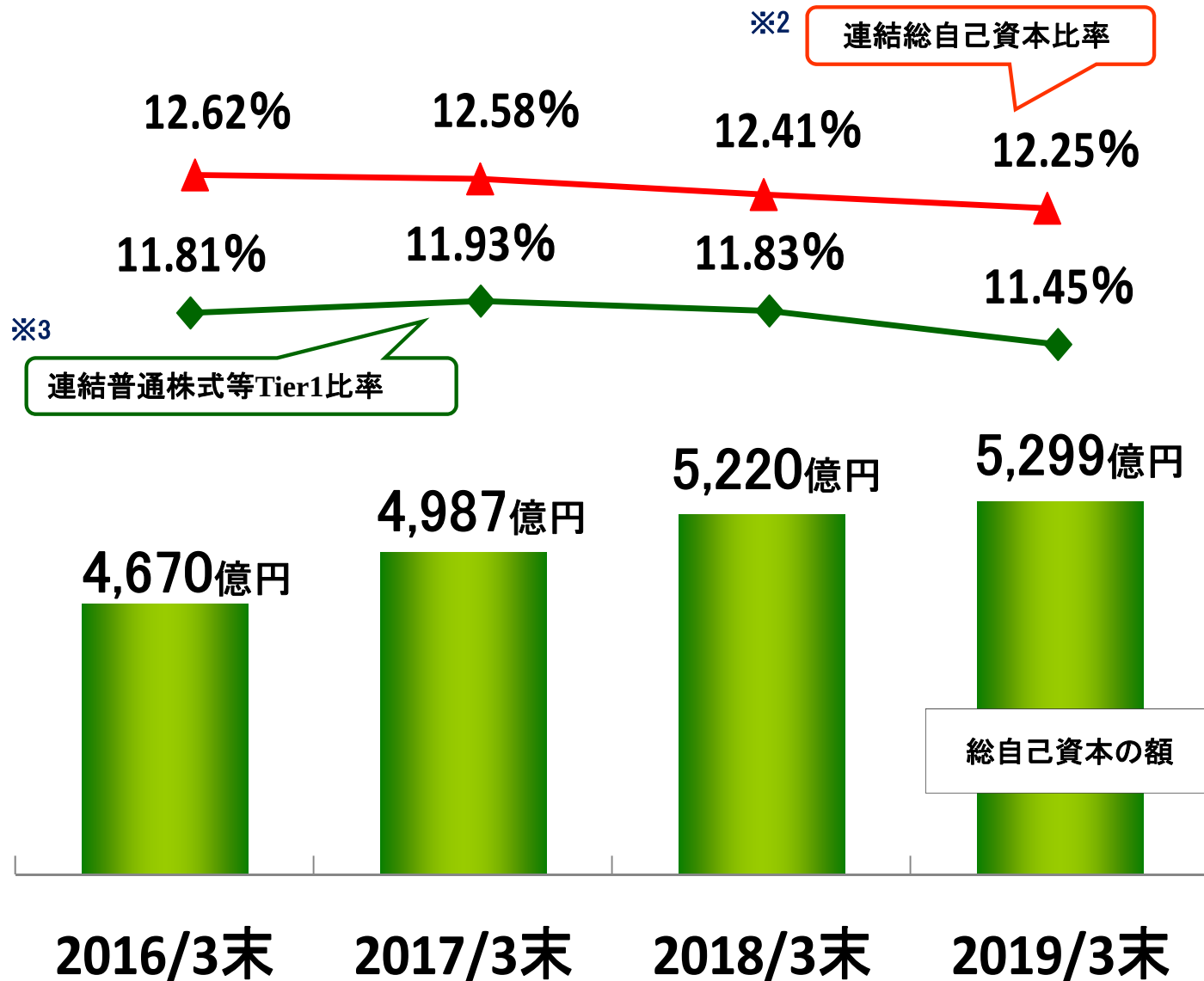
1	静岡
2	広島
3	中国
	・
9	群馬
	・

(当行は部分直接償却をしておりません)

「リスク管理債権」とは、貸出金のうち銀行法で定められた「破綻先債権」、「延滞債権」、「3ヵ月以上延滞債権」、「貸出条件緩和債権」に分類される不良債権のこと。

9. 自己資本比率(連結)の状況

自己資本比率は、^{※1}国際統一基準行に求められる8%を大きく上回る



※1. 自己資本比率規制において、海外に営業拠点を有する銀行に適用される基準。

※2. 総自己資本の額をリスク・アセットの総額で除して計算します。

※3. 普通株式等の基本的な資本をリスク・アセットの総額で除して計算します。

地銀64行資金量
上位15行中第7位

1	八十二
2	静岡
3	横浜
	・
7	群馬
	・

※2019/3末比較

Ⅱ.経営戦略



1. 中期経営計画

(1) 中計経営計画骨子

2019年 中期経営計画

Innovation 新次元

～価値実現へ向けて～

(2019年4月～2022年3月)

持続可能な地域社会の発展

未来へつづく豊かな生活

安定した収益と将来にわたる健全性



群馬銀行グループ

SDGs宣言

(2019年2月 制定)

めざす企業像

金融サービスの革新により、

お客さまニーズに応え、価値を実現する地域金融グループ



お客さまの成長支援



お客さまの資産増加

新次元

ビジネスモデルの進化による高度な価値実現



経営体質の強化



地域産業育成・事業承継



グループ総合力発揮

Innovation

3つの改革による経営プラットフォームの転換



プロセス改革



チャネル改革



人材改革

日々の業務における活動の目線やその行動様式（プロセス）、お客さまとの接点（チャネル）を戦略に適合させるとともに、企業理念を根本とした行員のモチベーション向上を伴うワークスタイル・キャリア（人材）の変革に取り組む。

(2) 計数計画（計数目標）

■ 計画最終年度（2022年3月期）における連結計数目標

＜収益性指標＞	親会社株主に帰属する当期純利益	240億円
	非金利業務利益	200億円
	R O R A	0.5%以上
＜効率性指標＞	O H R	65%程度
＜健全性指標＞	総自己資本比率	12%台

■ 長期目標

＜収益性指標＞	R O E	5%以上
---------	-------	------

■ 計数目標の達成に向けた主要計数

＜資金利益＞	リテール貸出末残	4兆7,800億円
	無担保消費者ローン末残	600億円
＜非金利業務利益＞	法人役務収入（連結）	42億円
	預かり金融資産残高（連結）	1兆円
＜地域活性化／SDGs＞	事業性評価に基づいた課題解決件数	1,500件
	事業承継支援先数	6,000先
	創業支援先数	2,000先
	女性管理職数(2019/3末比)	20%増加

2. 「3つの改革」

(1) 仕事の質向上をめざしたプロセス改革

○仕事の過程や質を大切にする文化の醸成

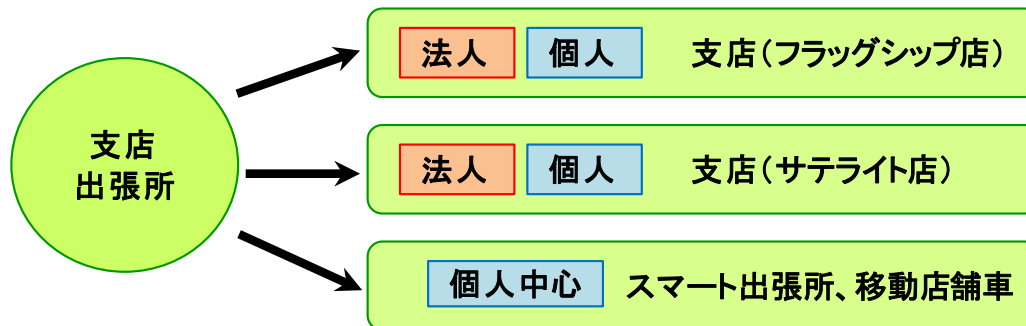
⇒ プロセス評価とCS/ESの向上

○コスト削減・ゼロベース発想・業務革新

⇒ 業務改革プロジェクト（2019年4月～）

(3) お客さま接点拡充のためのチャネル改革

○店舗ネットワーク改革



○移動店舗車「この街で」



2019年7月から稼働

○個人ブース“Connect”



2019年6月けやきウォーク前橋にオープン

(2) 創造力発揮に向けた人材改革

○専門人材の育成

○人材総合力の底上げ

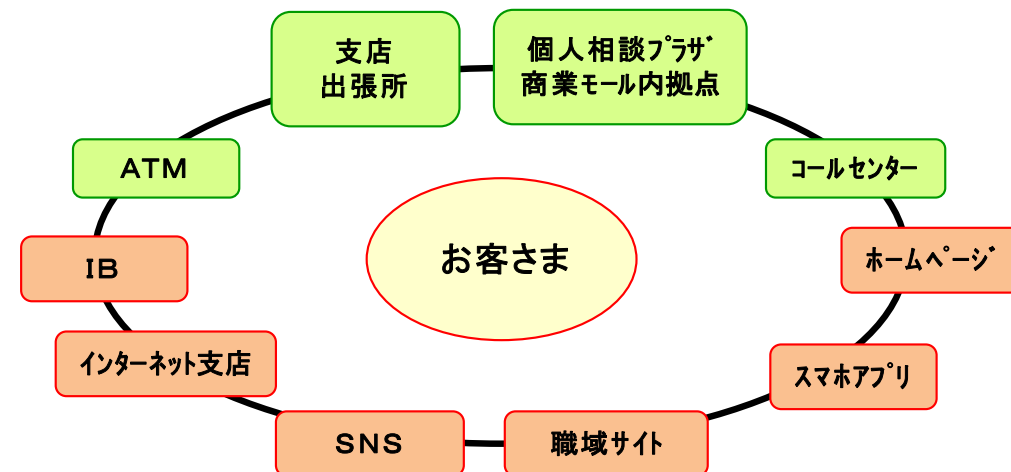
○ダイバーシティの推進

⇒ 創造力を発揮し、お客さまのお役に立てる行員を創出



女性専門チームによる活動

○非対面チャネルの大幅な拡充



お客さまの利便性向上を図るとともに、
コミュニケーションの機会を増やす。

● デジタルバンキングへの取り組み

◆ 『スマートフォンの普及に伴う顧客ニーズへの対応』

インターネット支店



群馬銀行アプリ

スマートフォンで
群馬銀行がもっと便利に！



「簡単通帳」アプリ



キャッシュレス決済



以下のネット決済・電子マネーに対応

- ・J-Coin Pay
- ・Origami
- ・Yahoo!ウォレット
- ・LINE Pay
- ・楽天Edy
- ・オックスパーク
- ・メルペイ
- ・プリン

◆ 株式会社フィンクロス・デジタルの設立 (2018年6月設立)



【主な目的】

様々なデジタル化投資にかかる開発コストを
複数行で按分することで、大幅に低減すること

「主な取り組み状況」

- 2019年4月稼働
行内文書検索システムの導入
- 2019年4月開発着手
個人顧客向けレコメンデーションシステムの開発

7行合計ビックデータ



普通預金：1,090万口座

融資先：80万先

3.「ビジネスモデルの進化」

(1)コンサルティング営業の取組み（法人のお客さま向け）

① 的確なコンサルティングによるお客さまの成長支援

◆ 事業性評価を基礎としたコンサルティングの実践

- 本部・営業店が一体となった事業性評価先の継続的な取組み
- 経営課題を経営者と共有し、お客さまと二人三脚で課題解決に対応

◆ 多様な法人向けサービスの提供

- 充実したネットワークを活用し販路開拓・拡大、ビジネスマッチングの支援
- 業務効率化のための情報システムの見直し、IT技術の活用方法の検討支援など



【 2019年中期経営計画 】
事業性評価に基づいた
課題解決件数
1,500件
(2019～2021年度累計)

② 事業承継への網羅的な取組み

- 一貫支援に向けた事業承継専担者の増員など本部支援態勢拡充
- 本部専門人材による的確な課題設定や事業承継型M&Aニーズへの対応
- ぐんぎんコンサルティングによる付加価値の高いプランニングの実行支援

【 2019年中期経営計画 】
事業承継支援先数
6,000先
(2019～2021年度累計)

③ より専門性の高いコンサルティングへの取組み

《開業後の状況》

⇒ 営業店からの案件紹介は6か月間で100件

・ニーズの高い事業承継をはじめとした様々な案件に着手中

ぐんぎんコンサルティング株式会社
資本金1億円（当行100%出資）
2018年10月開業（設立4月）



(2)コンサルティング営業の取組み（個人のお客さま向け）

① お客さま本位の資産形成サポートの実践

◆ お客さまの資産を増やす

- 「お客さま本位の業務運営」の実践と定着
- 長期・積立・分散投資によるお客さまの資産形成支援
- 銀証連携効果のベストミックスの追求
- 法個一体営業やウェルスマネジメントへの新たな取組み

- ・お客さまのお役に立つ商品等の選定
- ・手数料等の透明性向上
- ・重要な情報のわかりやすい提供



② 増加するシニア層ニーズへの積極的な対応

◆ 「のこす」ニーズへの対応強化

- 信託・相続専担部署の新設
- 相続タブレット受付の拡充

◆ 資産管理・保全ニーズへの対応

- 金融ジェロントロジーを活かしたサービスの多様化
- 高齢者に寄り添った手続き・サービスへの転換

「あなたの想いを」
→ 遺言信託
「家族の未来へ安心を」
→ 遺言代用信託
「ご面倒な手続きを」
→ 遺産整理業務



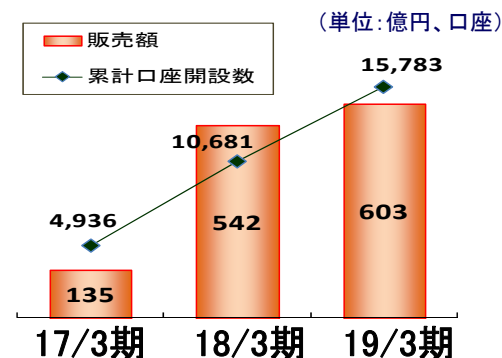
③ ぐんぎん証券株式会社による、より高度な証券業務ニーズへの対応

《開業後の状況》

⇒ 口座開設数・販売額とも順調に推移

- ・国内外の債券や株式、私募仕組債などのご提案
- ・幅広い資産運用ニーズに対応

ぐんぎん証券株式会社
資本金30億円（当行100%出資）
2016年10月開業（設立2月）



本店は群馬銀行前橋支店の3階

Innovation 新次元

(3) グループ総合力の発揮

リース・証券・コンサルティングなどグループ各社の機能を
最大限発揮し、お客さまの多様なニーズにお応えする。



お客さま

お客さまのニーズや課題を起点としたグループ一体でのサービスの提供



Ⅲ. 今期業績予想と株主還元



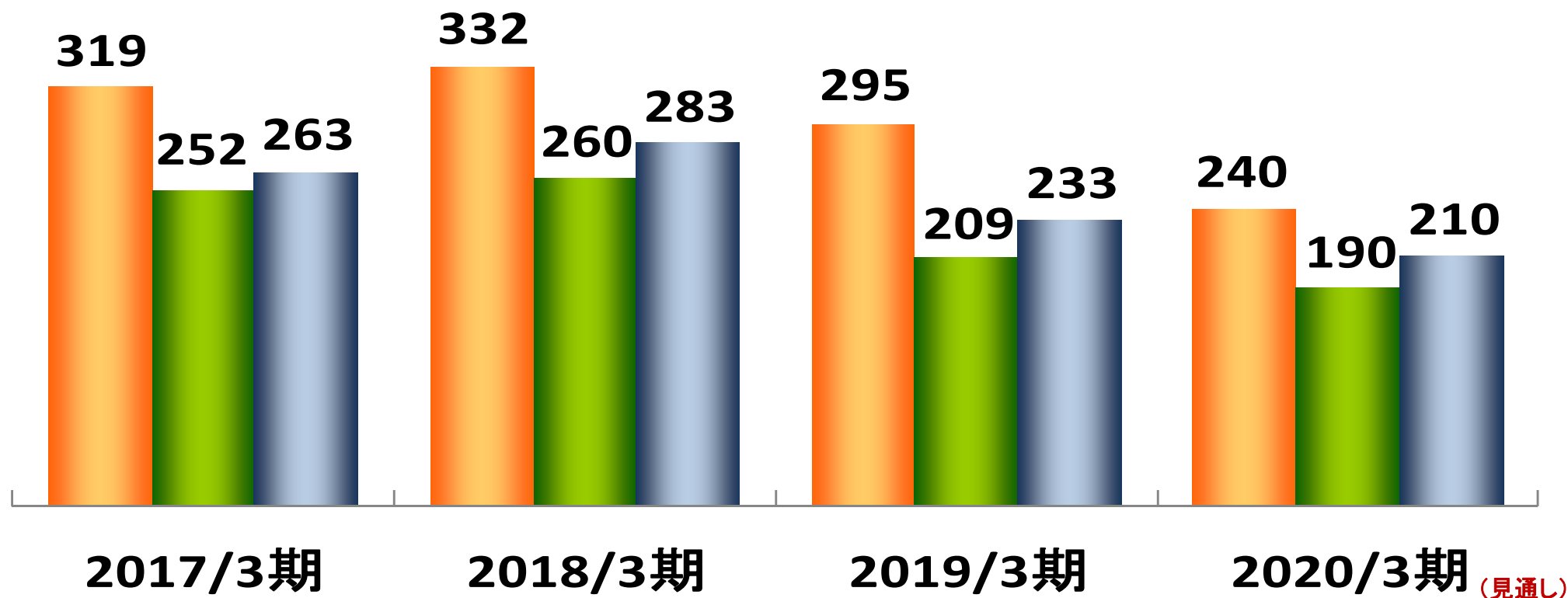
1. 2020年3月期決算の業績予想

厳しい環境の中、当期純利益は高い水準域で推移

- コア業務純益
- 当期純利益
- 連結当期純利益

「コア業務純益」は、貸出業務など銀行の本来の収益力
を表す(会社の営業利益に相当する)利益のこと。
「連結当期純利益」は、親会社株主に帰属する当期純利益のこと。

(単位: 億円)

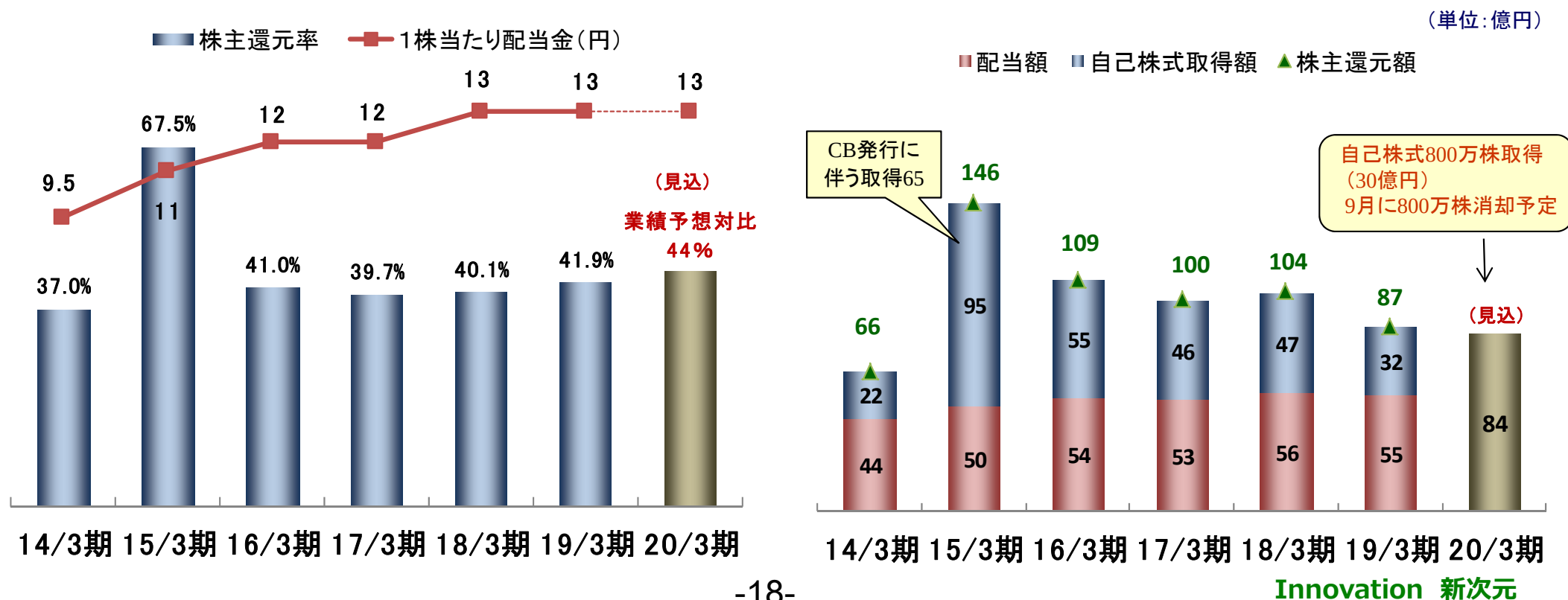


2. 株主還元状況

■ 株主還元方針

- 財務体質の強化に努めるとともに安定的な配当を継続する。
基本方針の下、業績連動型の株主還元を実施。
- 株主還元率は、当面、単体の当期純利益の40%目安。

■ 株主還元率等の推移



3. 株主優待制度

- 基準日 毎年3月31日(※)
- 対象株主 基準日時点の当行株主名簿に記載されている
普通株式1,000株以上お持ちの株主さま
- 株主優待制度の内容



地元(群馬・埼玉・栃木県など)
の特産品の中から保有株式数
に応じて選定

1千株以上～5千株未満・・・2,500円相当

5千株以上～1万株未満・・・4,000円相当

1万株以上 ・・・6,000円相当

※2019年度から「寄付コース」も導入

【人気商品の例】

赤城牛 すき焼き用

赤城牛 しゃぶしゃぶ用



里見梨

高崎市榛名地区特産品 里見梨3K箱



沼田産 ふじりんご

群馬県沼田産 ふじりんご



アイスクリームセット

アイスクリームセット

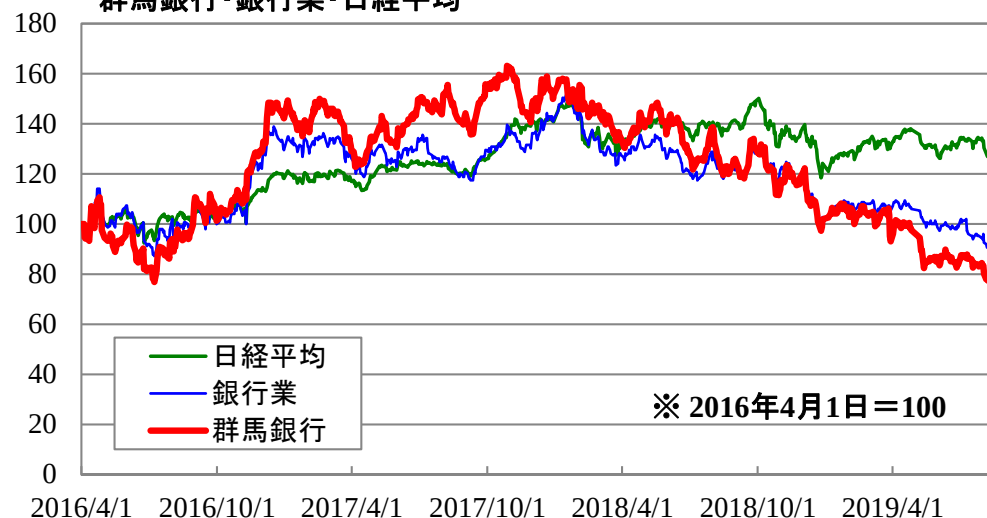


(※)基準日の2営業日前(基準日を含まない)までにご購入の必要があります。

4. 当行の株価と主要指標

株価の推移

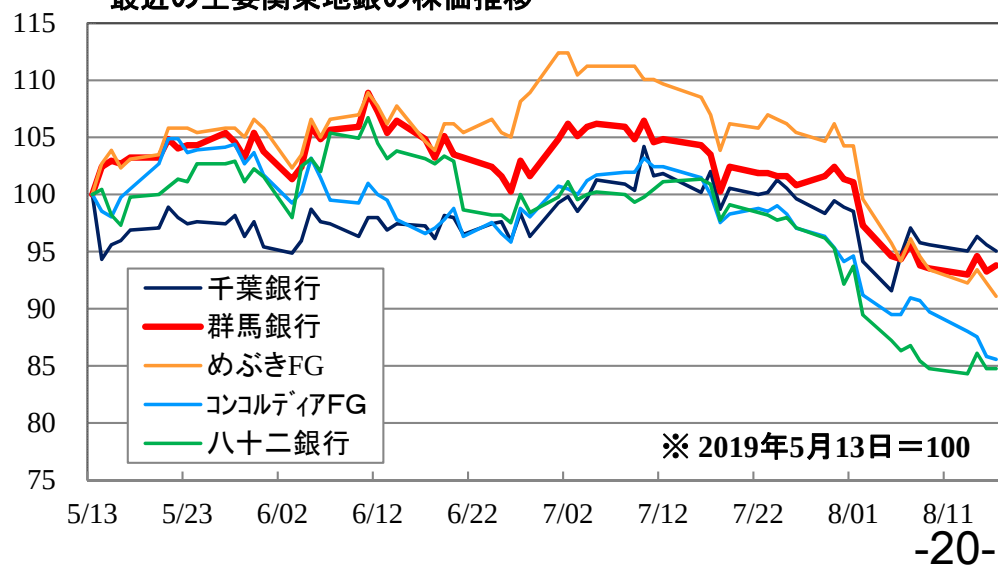
群馬銀行・銀行業・日経平均



VT-プラン

Innovation 新次元

最近の主要関東地銀の株価推移



主要指標

1株あたり予想利益(EPS)

50.1円

株価収益率(PER)

6.8倍
(A 11.5倍)

1株あたり純資産(BPS)

1,253.6円

配当利回り

3.83%
(B 3.47%)

※ 株価は2019年8月27日終値。

A: 日経平均PER

B: 上場地銀平均配当利回り

EPS、BPSは株数が異なるため比較できないが、
⇒ PERは日経平均に比べ割安。
⇒ 配当利回りは上場地銀平均を上回り、過去
最高水準。

Innovation 新次元

1. ESGへの主な取組み



～環境 (Environment)～

群馬銀行環境方針

- ・群馬銀行は、環境と産業が両立する真に豊かな地域社会の実現をめざし、ふるさとの自然環境を大切にしていきたいと考えています。環境保全に積極的に取り組み、市民として責任ある役割を果たしていきます。

【環境行動基準】

1. 省資源、省エネルギー、リサイクル活動を推進し、環境への負荷の低減に努めます。
2. 金融商品・サービスの提供などを通じて、環境保全に取り組むお客さまを支援します。
3. 役職員に対する環境教育を推進し、役職員の環境保全活動を支援します。
4. 地域における環境保全活動を支援します。

《 ぐんぎんの森 》



商品・サービスを通じた取り組み

- ◆環境配慮型私募債の取扱い
- ◆自然環境保護ファンド「尾瀬紀行」取扱い
- ◆省エネローン、マイカーローンの金利優遇
(環境に配慮した住宅設備の購入、エコカーの購入)

種 類	取扱開始	件 数	金 額
環境配慮型(銀行保証付)	2007年10月	272件	341.9億円
環境配慮型(信用保証協会保証付)	2008年10月	7件	3.3億円
ぐんぎんSDGs私募債(銀行保証付)	2018年11月	60件	44.1億円

公益財団法人群馬銀行環境財団

- ◆快適で健全な環境の整備向上に関する事業を行い、自然と人間が共生できる環境を確保し、地域社会の発展に寄与することを目的に、1995年に設立

<啓発活動>

「エコ・キッズ・キャンプ in 赤城山」、「環境探検隊」

<助成活動>

「群馬銀行環境財団教育賞」、「群馬銀行環境財団賞」

その他の環境への取り組み

- ◆「ぐんぎんの森」整備活動
- ◆店舗の省エネ化・・・太陽光発電システムの支店設置
- ◆電気自動車用充電スタンドの本店設置

《 前橋北支店のソーラーパネル 》 《 本店営業部のEVステーション 》



Innovation 新次元

～社会2 (Social)～

・群馬銀行は、幅広い金融サービスの提供により地域経済の成長を支えていくとともに、様々な社会貢献活動に取組み、地域社会の発展に役立てるように努めています。

活力ある組織風土の実現に向けて

- ◆女性活躍に関する認定取得
- ◆専門人材の育成と活用
- ◆多様な人材の活躍促進
 - ・若手行員を育てる態勢づくり
 - ・女性活躍の促進
 - ・育児サポート手当、在宅勤務の導入

働き方改革

社会貢献に向けた取組み

- ◆当行バレーボール部「群馬銀行グリーンウイングス」の活動
- ◆文化スポーツ支援活動
- ◆金融経済教育への取組み

バリアフリーへの取組み

- ◆コミュニケーションツールなどの全店設置
- ◆ATMのバリアフリー対応
- ◆店舗のバリアフリー対応



《女性活躍に関する認定》



- ・「プラチナくるみん」取得
次世代育成支援対策法の基づく、優良な「子育てサポート企業」
- ・「えるぼし3段階目(最高位)」取得
女性活躍推進法に基づき女性活躍の取組みの実施状況が優良な企業

《女性活躍の促進》



《入行2年目行員による出前授業》



《女性専門チームミーティング》



《グリーンウイングス》



《群馬交響楽団》



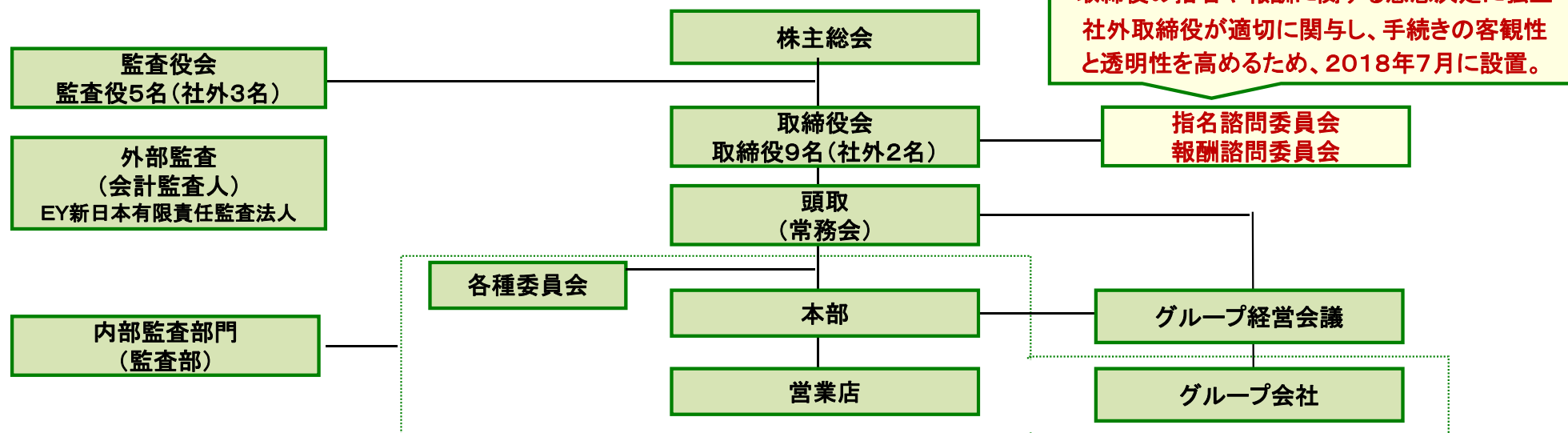
《エコノクス甲子園群馬大会》



～ガバナンス(Governance)～

・群馬銀行は、コーポレート・ガバナンスの充実を経営の最も重要な課題と位置づけ、取引先、地域社会、株主の皆さまからの高い評価とゆるぎない信頼を確立できるよう努めています。

コーポレートガバナンス体制図



社外取締役・社外監査役

社外取締役		2名/全取締役9名
武藤 英二 氏	元日本銀行理事	
近藤 潤 氏	元株式会社SUBARU代表取締役副社長	
社外監査役		3名/全監査役5名
小林 洋右 氏	元株式会社エフエム群馬代表取締役社長	
福島 金夫 氏	元群馬県教育委員会教育長	
田中 誠 氏	タクス税理士法人代表社員	

譲渡制限付株式報酬制度、業績連動型株式報酬制度を2019年6月に導入

- 社外が全体の3割以上を占める
- 社外の視点を経営に活かす

2. 群馬銀行グループ SDGs宣言



群馬銀行グループ SDGs宣言

(GB Sustainability Policy 2030)

私たちは、地域社会の発展を常に考えた事業活動の推進を通じて、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献し、持続可能な社会の実現と経済的価値の創造に努めてまいります。

<重点課題と取組方針>

1. 地域経済の持続的発展

- 地域の事業者の皆さまの成長支援や、地域活性化に向けた取組みを充実させるとともに、お客さまの多様なニーズに応じた金融サービスの提供により、地域経済の持続的な発展をサポートします。
- 次世代の担い手を育成するための多様な教育機会の提供・拡充に努めるとともに、地域の皆さまの金融リテラシー向上に向けて、金融経済教育の充実に取り組みます。



2. 地球環境の保全と創造

- 群馬銀行環境方針に基づき、環境保全や美しい環境の創造に取り組むお客さまを支援するとともに、私たちの事業における環境負荷の低減に取り組みます。



3. 多様な人材の活躍推進

- 女性や若年層、シニア層などすべての職員が生き生きと活躍できる職場づくりに向けて、役職員の多様性を高め、その活躍に向けた育成や柔軟な働き方の実現に取り組みます。



4. パートナーシップの推進

- 地方公共団体や法人、個人のお客さまなどとのパートナーシップにより、地域全体で持続可能な社会の実現に向けて取り組みます。



(2019年2月25日 制定)

当行グループは、「群馬銀行グループSDGs宣言」に基づき、事業活動を通じてSDGsの達成に貢献し、持続可能な社会の実現と経済的価値の創造に努めます。

本中期経営計画はこうした考え方のもとで策定を行い、当行グループが本計画の達成に向けて取り組むことで、持続可能な地域社会の発展や未来へつづく豊かな生活を実現し、当行グループの安定した収益と将来にわたる健全性へとつなげていくことを目指します。

企業理念

SDGs宣言

中期経営計画「Innovation 新次元」

本資料には将来の業績に関する記述が含まれております。
こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、
リスクや不確実性を内包するものです。
将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比異なる
可能性があることにご留意下さい。

本件に関するお問合せ先

株式会社群馬銀行 総合企画部 経営管理室(IR担当)

TEL 027-254-7055、7051、9451

(注) 本資料に記載の残高は原則 表示未満切捨、増減率は四捨五入しております。